

目指す学校像	地域から愛される 東大成小学校
--------	-----------------

重点目標	1 基礎学力の向上と体力の向上を図り、たくましい子どもを育成する。 2 子どもたちのウェルビーイングを実現する。 3 地域の多くの目で子どもの成長を見守る仕組みづくりを確立する。 4 教職員の育成及び働き方改革をととして教職員のウェルビーイングを実現する。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○令和5年度さいたま市学習状況調査結果では、社会及び理科に関しては市平均と比べて概ね良好であるが、国語及び算数に関しては市平均よりも下回っている。 ○体力テストの結果、投擲力及び持久力が市平均を下回っている。 <課題> ○国語は語彙力及び読解力の向上が必要である。 ○算数は図形領域を苦手とする児童が多く見られ、この領域についての基礎基本の定着を図る必要がある。 ○投擲力及び持久力の向上を図る必要がある。	・語彙力、読解力の向上及び図形領域の理解度向上に向けた取組をする。 ・体力の向上、特に投擲力及び持久力を向上させる。	①ICTを積極的に活用し、語彙力、読解力の向上及び図形領域の理解度向上に向け、個別最適な学びに取り組む。 ②学習の理解度に合わせ、必要に応じてTTで個別支援を施す。	①語彙力、読解力及び図形領域の成績がR5のデータを上回る。 ②語彙力、読解力、図形領域の学習におけるスクールダッシュボードの学習理解度について、7月よりも12月が上回る。	①市学力状況調査の結果より、語彙力、読解力がいずれもR5のデータを大きく上回ることであった。また、図形領域においても若干ではあるがR5のデータを上回ることができた。 ②国語及び算数の学習におけるスクールダッシュボードの学習理解度については、概ね横ばいであった。	B	①市学力状況調査の結果を受け、次年度は国語「話すこと・聞くこと」及び算数「データの活用」についての学力の向上にむけた指導に取り組む。 ②国語及び算数の学習について、スクールダッシュボードを活用した授業改善をさらに進めていく。	・「算数における図形領域の理解の向上」及び「国語における言語学習の向上」について、引き続き児童の力を高めるよう努めていただきたい。 ・体験型学習を今後も進めてほしい。
2	<現状> ○登校時や校内ですれ違う際のあいさつがやや消極的である。 ○設置後50年が経ち、錆等による腐食や劣化の激しい遊具が存在する。 <課題> ○あいさつが飛び交い、感謝の気持ちが素直に表せる、居心地の良い学校の雰囲気へ改善する必要がある。 ○老朽化した遊具及び施設・設備等の修繕に係る環境整備を教育委員会学校施設担当所管と連携しながら引き続き取り組む必要がある。	・子どもたちにとって居心地の良いWell-beingな場所となる学校経営の推進。 ・敷地内樹木の適切な剪定及び老朽化遊具の修繕や撤去による安全性の確保。	①「安全、あいさつ、ありがとう」をキーワードとして、児童会活動によるあいさつ運動や帰りの会での振り返りにて助けてくれた児童へ感謝の気持ちを伝える場面をもうけるなど、教育活動において子どもたちの心身の健やかな成長を図る。 ①老朽化した遊具の修繕及び撤去を行う。 ②桜の木の剪定、朽ちた枝をなくす。	①学校評価児童対象質問項目「学校に行くのが楽しい(新規項目)」について肯定的評価が92%以上となったか。 ※市学力調査結果 R5:91% ①学校評価児童対象質問項目「学校に行くのが楽しい(新規項目)」について肯定的評価は84%であった。 「安全、あいさつ、ありがとう」について、講話朝会や始業式及び終業式にて校長から児童へ指導し、さらに各担任からクラスの児童に指導させ、推進を図った。 ①老朽化した備品や施設の修繕に予算を使ったため、遊具の修繕及び撤去については実施できなかった。 ②令和6年12月末に桜の木の剪定を実施した。	A	①学校に行くのが楽しくなるように、教育活動において自己肯定感や自己有用感が味わえる場面を増やす。児童会を中心にあいさつ運動が継続的に行われたこともあり、あいさつが年度初めに比べ定着した。引き続き取り組む。 ①引き続き老朽化した備品や施設の修繕をするともに、遊具の修繕及び撤去を実施する。 ②敷地内の植物及び樹木において剪定が必要とされるものについては市教委と連携を図る。	・「安全、あいさつ、ありがとう」の取組を今後も続けてほしい。 ・必要な箇所の施設修繕ができています。老朽化遊具の撤去も進めてほしい。	
3	<現状> ○PTAより本校の教育活動支援について、前向きに御協力をいただいている。 ○地域の防犯ボランティアの皆様より、児童の登下校時の安全確保について御協力いただいている。 ○アフターコロナで様々な教育活動が本格的に再開されたが、教育活動のどこに外部講師や学習ボランティア等をあらためて位置付けるのかについて、見通しがもてていない。 <課題> ○学校運営協議会をトップに据え、学校・家庭・地域が主体的に教育に係わる「地域の多くの目で子どもの成長を見守る仕組みづくり」を組織的に展開し、体験活動やホンモノに触れる機会が多い教育活動を展開する。	・PTA 学習ボランティアと連携した継続的な学習支援を行い、児童の学びへの意欲を高める。 ・外部講師による授業を取り入れ、児童の深い学びを定着させる。	①PTAボランティアによる読み聞かせや学習支援など、スタディステーションにおける学習イベントの実施(年間6回以上) ①保護者や地域住民による学校教育への参加型支援。昔遊び、体育、コンピュータ、業間休みの学習イベントなどの実施。その中で、大人のパフォーマンスや所作を子どもたちに見せることで、大人たちが子どもたちのロールモデルとなる機会、大人の真剣さや本気を見せる機会をもうける。	①学校評価学校運営協議会委員対象質問項目「地域行事との連携または地域社会人講師等の活用等、地域の教育力を積極的に活用する」について肯定的評価が60%以上となったか。 ※同調査 R5:50% ①学校評価学校運営協議会委員対象質問項目「学校運営協議会での熟議を通し、学校・家庭・地域それぞれの取り組むべき課題を明確にする」について肯定的評価が85%以上となったか。 ※同調査 R5:83%	①日本フィルハーモニー交響楽団によるブライマリーコンサートや県美術館による鑑賞教室など、体験型学習の機会を増やすことができた。学校評価学校運営協議会委員対象質問項目「地域行事との連携または地域社会人講師等の活用等、地域の教育力を積極的に活用する」について肯定的評価は80%となり、大きく上昇できた。 ①学校評価学校運営協議会委員対象質問項目「学校運営協議会での熟議を通し、学校・家庭・地域それぞれの取り組むべき課題を明確にする」について肯定的評価は80%であった。 登下校時の見守りにおける学校・家庭・地域がそれぞれできる取組について、継続的に協議しているところである。	A	①令和7年度は外部人材よりも地域人材による体験型学習の機会が増やせるような仕組みづくりに取り組む。 ①児童の安全確保のため、登下校時の見守りにおける学校・家庭・地域がそれぞれできる取組について、引き続き協議を進める。	・外部人材や地域人材の活用は今後も進めてほしい。 ・地域の行事に児童が多く参加するようになり有難い。 ・学校と地域が双方向に関係を深めていけるとよい。
4	<現状> ○教員の年齢構成に着目すると20代及び30代半ばまでの教員が多くを占めるが、全体的に仕事への意識や意欲が高い。 ○中堅の教員が経験の浅い教員をフォローしたりリカバリーしたりしながら学校運営を進めている。 <課題> ○働き方改革を推進し、教員が授業準備や子どもと向き合う時間を就業時間中に、さらに確保する必要がある。 ○経験は浅いが、学ぶ意欲が高い教員に対して、学校課題研修である特別活動をととして、教科指導力や生徒指導力の向上を図る。	・教職員が安心して同僚や管理職に相談や検討・協議、分かち合い等ができるよう日頃からの声掛けや雰囲気づくりを推進する。	①質の高い教育を提供するためには、教職員がウェルビーイングであることが前提である。そこで、校内の教育活動について、教職員がエージェンシーを発揮して教育的効果や系統性について検証し見直しを図る。そのために、教職員がお互いに分かち合いや助け合い、相談や協働ができる職場の雰囲気づくりを推進する。 ②各教職員の強みや弱みを確認しつつ、キャリア navi と照らし合わせながら、教職員への研修奨励を推進する。	①市教委実施の意識調査において「職場は風通しのよい職場である」の項目における肯定的評価が85%以上となったか。 ※同調査 R5:82% ②教職員学校評価質問項目「校内研修をととした指導力向上が図れた」について肯定的評価が95%以上となったか。 ※同調査 R5:93%	①市教委実施の意識調査において「職場は風通しのよい職場である」の項目における肯定的評価は80%であった。 ②教職員学校評価質問項目「校内研修をととした指導力向上が図れた」について肯定的評価は92%であった。 今年度、大学教授や市教委指導主事を外部講師として招聘し、教職員の資質向上を図った。	A	①教職員一人ひとりが互いを認め合える職場づくりを推進したい。コーチング手法を用いて課題解決ができるような意識を教職員に定着させる。 ②引き続き外部講師の支援を得ながら質の高い校内研修を推進し、教職員の質の向上を図りたい。	・校内研修をチーム学校として進めることができています。 ・教職員学校評価において、「概ね達成(6割以上)」がとても多い。「ほぼ達成(8割以上)」と自信をもって評価できるように取り組んでほしい。

学校運営協議会による評価	実施日 令和7年2月10日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	